



ニューズレター

No. 111

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

<https://lora-saga.jp/>

<https://lora-saga.jp/ialt/>

☎840-8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学理工学部内 TEL/FAX : 0952-28-8712

令和6(2024)年11月8日

都市空間専門部会 講演会の開催報告

10月31日(木)に佐賀大学理工学部3号館107セミナー室にて、チェンマイ大学建築学部のキティカ博士/Dr. CHIRANTHANIN KITIKAによる「COLLABORATIVE DESIGN & ARCHITECTURE IN URBAN COMMUNITY: CHIANG MAI THAILAND (タイ・チェンマイの都市社会および地域における建築・連携デザイン)」と題した特別講演会が行われました。留学生を含む計21名の参加がありました。



キティカ博士

CHIANG MAI THAILAND (タイ・チェンマイの都市社会および地域における建築・連携デザイン)」と題した特別講演会が行われました。留学生を含む計21名の参加がありました。

講演会では、王宮都市チェンマイの近年の都市化、河川沿いの大雨や浸水実績等の低平地都市として課題について解説がありました。次に、町並み景観や建築的特質に加え、歴史都市内部の寺院中心としたコミュニティ、そこでの観光客の要求を踏まえた各種施設デザインについて、そこでの伝統と現代をミックスしたあり方について、また、現代の観光振興、リモートワークやノマドワーカー等の新しい潮流におけるデザインの考え方についての示唆的な事例紹介がありました。さらに現在進行中の、チェンマイ大学と佐賀大学によって行われている大学と都市(自治体)の連携モデル研究(SEED PROJECT “University City model”)の解説がなされました。

質疑では、歴史的な要素と新しい動向、それらをどのように融合するか、その都市や建築のデザイン、交通環境の改善など話題となり、それら継続的な議論の必要性など今後につながる意見交換が行われました。

都市空間専門部会 講演会の開催案内

11月25日(月)に重村力氏(神戸大学名誉教授、Team Zoo いるか設計集団主宰)をお招きして、「地域を読むーまちづくり 地域主義デザイン 50年の経験から」と題した講演会を開催いたします。参加を希望される方は、氏名、メールアドレス、所属をご記入の上、11月20日までにメールにて低平地研究会事務局へお申し込みください。

低平地研究会都市空間部会・佐賀大学理工学部都市工学部門 特別講演会

地域を読むーまちづくり

地域主義デザイン50年の経験から

講師: **重村 力**

(神戸大学名誉教授/TEAM ZOO いるか設計集団主宰)

進行: 後藤隆太郎 (佐賀大学理工学部 教授)

日時: 2024年 11月 25日(月) 15:30~18:00

場所: 佐賀大学理工学部 4号館106 デザインギャラリー(佐賀市本庄町1)

主催: 低平地研究会都市空間部会・佐賀大学理工学部都市工学部門

後援: 日本建築学会九州支部佐賀支部

参加費無料・定員60名・下記へ氏名・メールアドレス・所属とともに11月20日までに参加申し込みください。

参加申込先: lora@lora-saga.jp ※を空に返信して送付ください

低平地に関する豆知識—その 39—

「有明海の津波」

地震速報などの際に耳にする“津波”については 2011 年の東日本大震災などを通して認知されていると思われませんが、ここでは有明海（および佐賀低平地）でリスクが高いとされる高潮との関係性と併せて津波災害について紹介します。

津波と高潮は同じ式で記述可能な、水力学的に同じ海水面の上昇であり、沿岸部に深刻な被害を及ぼす場合があります。高潮は基本的に台風などの気象現象に伴い発生します。一方、津波は地震や火山噴火などの地殻変動に伴い発生する水理現象であり、プレートの境界や火山・断層が付近にある場所でのリスクが高くなります。したがって、内湾の有明海はプレートの境界で起きる大規模地震の影響は受け難いのですが、断層のずれによる津波には注意が必要です。過去には 1792 年に雲仙普賢岳の眉山の崩壊で発生した大量の土砂が有明海に崩落して生じた津波により、対岸の熊本側でも甚大な被害が発生した“島原大変肥後迷惑”と呼ばれる大災害が起きました。また、日本と同様に災害が頻発しているインドネシアでは、2018 年に“インドネシア版島原大変肥後迷惑”とも呼べる火山噴火による津波災害がスンダ海峡で発生しました。



眉山の崩壊斜面

(押川英夫：佐賀大学理工学部 教授)

書籍のご案内

本会所属の後藤隆太郎氏（佐賀大学理工学部）が編著者として参画した書籍、『事例でみる住み続けるための減災の実践』が学芸出版社から 2024 年 9 月に刊行されました。（A5 判・204 頁、本体 2500 円＋税）

日本各地、多様な災害・減災に関する全 32 事例を通じて、災害としなやかに付き合う多様な手法が収録されています。関心ある方はぜひご高覧ください。



会員 動向

特別会員

国土交通省佐賀河川事務所

佐賀河川事務所は、令和 2 年度に開所し、嘉瀬川ダムと流況調整河川である佐賀導水路の管理、城原川ダムの建設事業を担ってまいりました。



嘉瀬川ダム

令和 6 年度より、新たに、筑後川河川事務所が管理していた筑後川支川「城原川」、「佐賀江川」、「田手川」、武雄河川事務所が管理していた「嘉瀬川」の管理も担うことになり、近年、全国的に水災害の激甚化・頻発化するなかで、嘉瀬川及び城原川の上流から下流まで一貫した管理、筑後川から嘉瀬川を東西に貫く佐賀導水路の管理により、佐賀・東部地域の治水・利水の一体的な管理強化等を図ってまいります。

環境専門部会 映像コンテンツ出展

11 月 16 日(土)開催『第 6 回森川海人っフェス！』

(佐賀さいこうフェスと同時開催)

にて、佐賀低平地に多く存在する農業用水路「クリーク」を広く知ってもらうため、お子さんたちを対象とした映像コンテンツを出展します。環境専門部会では低平地の水環境に着目した活動しています。気候や社会が変化する上でクリークが果たす役割は極めて重要ですので、情報発信の一環として映像資料を作成し出展しました。



2025 年 1 月には技術者向けの映像コンテンツが完成する予定です。

(三島悠一郎：佐賀大学理工学部 講師)

電子版ニューズレター発行について

前号でもご案内いたしましたとおり、来年度発行 (No.113) より電子版発行へ移行いたします。研究会ウェブサイトのニューズレターバックナンバーのページにおいて、PDF のニューズレターを掲載します。発行の際には、メールでお知らせいたします。また、ウェブサイトトップページのお知らせ欄からも最新号発行をご案内いたします。よろしくお願いいたします。

編集後記

過去バルーンフェスタの時期は冬着で震えながら見物したり、11 月上旬の三連休を過ぎると紅葉していたはずなのですが、今年の秋は変わっているので、記憶が不安になりました。

編集：三島悠一郎、武富 (lora@lora-saga.jp)